

市長	副市長	教育長	教育次長	課長	館長	課長補佐	係長	記録
								博物館 中村淳一

【所属名：教育委員会文化振興課（博物館）】
【会議名：糸魚川市博物館協議会 運営部会】

開示
一部開示 (理由:条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月 日)

会 議 録

作成日 平成 31 年 1 月 11 日

日	平成 30 年 12 月 20 日	時間	14:00 ~ 15:45	場所	フォッサマグナミュージアム ホール
件名	議題(1)	前回博物館協議会での検討事項について			(公開)
	議題(2)	平成 30 年度入館者およびショップ販売の状況等について			(公開)
	議題(3)	平成 31 年度の主な事業計画について			(公開)
	議題(4)	協議事項			
		①フォッサマグナミュージアムの将来の運営形態について			(公開)
		②集客方法について			(公開)
出席者	【出席者】 5 人 運営部会 池亀会長 中村委員 野本委員 渡辺委員 赤野委員 山本委員				
	【事務局】 博物館 磯野館長 竹之内館長補佐 (学芸係長) 中村館長補佐 古平業務係長				
	傍聴者定員		一人	傍聴者数	0 人

会議要旨

1	開会 (14:00) 館長あいさつ
2	議題 議題(1) 前回博物館協議会での検討事項について 【事務局】 説明 【委員】 化石の日の取組は平成 31 年度にぜひ実行に向けて取り組んでもらえればと思う。 【事務局】 来年度ぜひ実施させてもらいたい。 議題 (2) 平成 30 年度入館者およびショップ販売の状況等について 【事務局】 説明 【委員】 7 月に「うみがたり」がオープンし、お客が取られたという懸念もあるが、それは確かにあると思うが、逆にマリンドリーム能生では遠くから来るきっかけ作りととらえ、「うみがたり」に来るついでにマリンドリームなどに寄ってもらうという働きかけをしている。総体的に言うとこれからの PR 次第ではないか。新潟に来た時にはぜひ訪れてもらう、といった形で大いに PR すれば良いと思う。「うみがたり」は上越地域の目玉になるので

はないか。

議題 (3) 平成 31 年度の主な事業計画について

【事務局】 説明

【委員】 a 春の市民縁日から e (仮称) ネオクラシックカーイベントまでの事業の主催はすべてフォッサマグナミュージアムか。

【事務局】 a 春の市民縁日、b クラシックカー原画展、c 第 15 回クラシックカーミーティングについてはミュージアム主催である。

d 日本海クラシックカーレビューは会場がここだが、実行委員会で開催されている。交通安全フェアとして、大々的に取り組まれている。

e (仮称) ネオクラシックカーイベントはいくつかの団体の共催になる予定。

【委員】 特別展は結構難しい内容になって大変かと思う。いかに親しみやすさを出すか。(特別展で取り上げる予定の) 小藤文次郎先生は東大の 1 期生で、日本の地質学の第一歩を記しているのだから、そういう研究史を押さえるとわかりやすいのではないかと。例えば、先生が調べた地域とのつながりを出してはどうか。実は私の勤めている下仁田ジオパークを最初に歩いたのも小藤文次郎先生だ。埼玉、群馬といったところを研究している。そういった国内の地域とのつながりを出していくことで親しみやすさが出るのではないかと。思う。

【委員】 貴重な意見と思うのでぜひとも対応してもらいたい。

【委員】 特別展はいつごろ開催の予定か。

【事務局】 特別展は 10 月、11 月に開催になると思う。

【委員】 化石の日と関連があるのか。

【事務局】 開催時期としては重なるかもしれない。そうなればリンクして開催することも可能だと思う。

【委員】 事業計画に載っているクラシックカーと糸魚川のつながり、歴史的なものを教えてもらいたい。なぜここで開催しているのかも含めて。

【事務局】 元々市民会館の前で開催していたが手狭になってきて、職員から場所の提案をしたところ、ミュージアムの前庭でやることになった。

【委員】 糸魚川市とクラシックカーとの結びつきはどうか。

【事務局】 青年会議所の事業として始まって、交通安全と冠を付けることで市民の皆さんも関わるイベントとなっている。クラシックカーの愛好家が趣味も合わせて開催したのが、現在では何万人も来るイベントに成長したと聞いている。

【委員】 このイベントを実施するときに長野のあたりもクラシックカーが通る。結構広がりがある。

【事務局】 出品者もそうだが、見に来る人も自分のクラシックカーで来るという人もたくさんいるようだ。

【事務局】 11 月に開催予定のネオクラシックカーイベントについても、市外からクラシックカーイベントに来る方々にとって、このミュージアムはクラシックカーの聖地として認識されているので、ぜひここでやろうという話になっている。

【委員】 クラシックカーとフォッサマグナミュージアムのつながり、どうしてフォッサマグナミュージアムで実施するのかという部分があった方がいいのかなと思った。

【事務局】 クラシックカーとミュージアムは直接関係あるわけではないが、大勢来ていただいて知名度アップには確実に貢献していると思う。

【委員】 あまり無理した理由付けはやらないほうが良いと思う。実はこの場所は、縄文時代には全国の石斧生産の中心地だった。そこが今はクラシックカーの中心地になっているということではないか。

【委員】 集客するキーワードの一つとしてクラシックカーがあるということではないかと思う。

【事務局】 イベントの参加者にはミュージアムのチケットを渡して見学してもらった態勢は整えている。市民の皆さんにとっては、ミュージアム＝クラシックカーイベントの場所との認識の方も大勢いると思う。

【委員】 ミュージアムが実行委員会に入っているというのは何の疑いもない。主催だとどうなのかという感じはある。

【委員】 クラシックカーと聞くとこのミュージアムをイメージされる形になっているのかもしれない。

議題(4) 協議事項

①フォッサマグナミュージアムの将来の運営形態について

【事務局】 説明

どういう館になってほしい、といったことをそれぞれの立場で教えていただければ参考になると思う。ざっくばらんにご意見いただければと思う。

【委員】 運営形態も、指定管理、業務委託、直営と、色々な形があると思うが、館内ではどのような話し合いをしているのか。将来こうあるべきとか話し合われているか。

【事務局】 これまでやったことがない。いい機会と思い説明させてもらった。

【委員】 収益が伴えば指定管理という形で民間業者もやれるだろうが、中々収益が伴わない面も多々あって、施設を管理するだけでも大変だ。そういう中でこれまで直営で来ている。先ほどの説明のように部門ごとに指定管理、業務委託、直営といった形態が考えられるのかもしれない。

【事務局】 指定管理の目的は二つあり、一つは経費が節減されること、一つは来る人たちが増えることと言われている。ここの管理をほかの方にお任せする、一つの形態として指定管理があると思ってもらえばいいと思う。

【委員】 全国的な傾向として博物館は市立が多いのか。

【事務局】 2014年の段階で公立博物館が4,246だが、指定管理者になっているのはそのうちの1,211館。1/3くらいが2014年で指定管理者制度を導入しているということになる。

市の財政がだんだん厳しくなっているので、コスト削減のために指定管理者制度を推奨していることも事実だと思う。そういう観点で以前市議会でも話が出ているわけだし、経費の削減だけでやっていくと失敗するのかなと思う。社会教育施設という性格に照らしても、やはり公平中立であるべき直営がよいという風に個人的には思っている。

【委員】 人口が減少し、厳しい条件が増えていく中で、どう対応していくかは大きな問題になってくる。やはり指定管理の導入は、その自治体で管理委託する施設が機能を果たせるかどうか、ということになってくる。多くの市町村、公立博物館は直営で、(資料の)入館者のグラフでいうと、「力の蓄え期」をずっと維持しているところが多いと思う。フォッサ

マグナミュージアムはジオパークもあったおかげで、それをうまく活かして入館者は増えてきているし、中身も頑張っている。全国の博物館施設の中でも珍しい存在、モデルケースだと思う。そういう意味で直営できるのならそれが一番いい。

糸魚川の場合の一つの条件としてはジオパークがあるので、このジオパークの運営がどのように変わっていくか。ジオパークが今よりもっと有機的な活動ができてくるのであれば、そのジオパークの運営とこの館の運営というのは、リンクしていけると思うが、それを抜きにして、一般の指定管理の考え方で館の運営だけを委託する、ということでは成り立たないと思う。その辺は、今まで色んなところでやっている民営化とは違う部分であるし、逆にそういうジオパークと一体化してできれば、日本国内でもまた新しい実験になると思う。

【事務局】 日本のジオパークは、どこも市町村が協議会に入って直営だが、NPO 法人のような組織を作って、市の意向が変化してもジオパークを続けるというのが理想だと言われている。方針が変わってもジオパークができるような組織的な算段というのは、これから必要になってくると思う。

野尻湖ナウマンゾウ博物館では指定管理の話はあったか。

【委員】 以前あったが、どうしても指定管理に出そうという雰囲気ではなかった。8万人の入館者があったので、平成の初めの頃は民営化してもやっていたと思う。その後どんどん減って、現在2万人の入館者の状態では何もできない。指定管理に出しても、受けるところがない。

北海道の足寄動物化石博物館は、指定管理者にして、町から委託金が4,000万円出ているが、化石の発掘体験をやりながら、何とかやっている。かなりの部分は財政支出しているし、今まで職員だった人が給料下げて活動を維持するという状態と聞いている。

【委員】 指定管理になると削れるところをみんな削って、思うような展示物の更新ができないとか、悪い影響がでなければいいが。節約、節減を狙っていくとサービスの低下になりがちだ。

【事務局】 ここのミュージアムの高校生以下入館料無料は、例えば指定管理にすると、入館料収入が指定管理者に入ることを考えると、変わっていく可能性もある。仕様書、契約を交わす中で条件とすることはできるが、そういう条件で果たして応募があるか、ということは出てくるかもしれない。

【委員】 先ほど事務局から経費削減と来場者数のアップということが見込まれることが目的という話があった。経費削減はわかるが、必ず来場者数がアップするとは限らない。説明があった足利市立美術館のように、指定管理にしたが結局直営に戻した、ということを考えると、私は今のままで十分ではないかと思う。この博物館協議会で年度の取組を聞いて意見を述べるチェック機能もあるし、定例の教育委員会でもチェックするし、市議会でも公営・市営であるからチェックができるのであって、積極的に指定管理にしていくという必要性を私は感じない。

【委員】 施設によって指定管理にそぐわないものとかいろいろあるのだろう。

【委員】 先ほどの資料の中で経営的な説明があったが、市行政としてのこの博物館の位置づけという部分がなかったように感じる。

ここの持っている役割は、糸魚川地域の防災だとか教育に関して貢献するという部分が

大きくある。

糸魚川のテーマとしてフォッサマグナ、糸魚川ー静岡構造線に位置するまちというのが、一つの市のキャッチフレーズ、特徴であって、それを元に市のビジョンが作られていると思う。ジオパークに日本で初めて取り組んだ糸魚川として、その特色ある文化活動、広報活動の中で、ここが果たしてきた役割がどういう風になっていくのか。指定管理にするにしても、今までの位置づけと、市としての特色という部分をはっきり整理しておいた方がいいと思う。それを抜きにして指定管理にするのでは、市としての部分がなくなると、糸魚川市の精神がなくなることになってしまう。みんながはっきりと認識できるようにすることは必要だと思う。

【事務局】 例えば博物館条例の設置目的をさらに明確にするといったことか。中村委員が言うような、防災を含めて市の特色を出した活動をすべきだとか、そういうことを書き込めば、オーソライズ（正式になる、公認になる）していくことになると思う。

【委員】 もう一つ翡翠についても、日本の歴史の中で翡翠が果たした歴史的な位置づけがある。翡翠だけでなく、透閃石岩で最初に長者ヶ原で作った石斧は翡翠よりも重要で、あれが日本の縄文文化の骨格になっている。そのように全国で糸魚川が持つ歴史的な価値についても、文化財だと地域自治体が文化財を守る義務が出てくるが、その辺も明確にしておいた方がいいと思う。

【委員】 今ほど出された意見に対して今後のミュージアム内部での検討に取り入れていただいて、考え方が整理出来たら、次回以降に示してもらえればと思う。難しい内容だが、事務局でよい方向に進めてもらいたいと思う。

議題(4) 協議事項

②集客方法について

【事務局】 説明

【委員】 ミュージアム友の会は会員になると入館料はどうか。

【事務局】 無料になる。

【委員】 個人会員であれば1回千円を払うと一年間何回見ても無料か。

【事務局】 そうである。

【委員】 家族会員は家族の人数は関係するのか。

【事務局】 家族であれば何人でもみんな入れる。

【委員】 ちょっと違った観点も入るが、ジオパーク関連で人が来たというのをつかむのは中々難しい。その把握と、この館の入館者数をつなげることができないか。

例えば、いくつかのジオサイトをまわって、そこのスタンプでも、携帯の機能を使ってもよいが、それを例えば三つ集めて持って来れば入館割引するとか、そういうことをやればジオパークの利用促進にもなるし、この館の利用促進になると思うがどうか。

【委員】 例えば写真撮影してきて見せるとか、いろんな方法があると思う。行ってきた証が何かあればよいのだから。

【事務局】 宝石の国展の際に県でフォトラリーというのを実施した。例えば高浪の池へ行って写真を撮ってそれをソーシャルネットワークサービスに上げる。そういうのを市内の何か所かでやると、景品がもらえるという取り組みをやった。それに近いのかなと思う。例えば今

だとそういうやり方もあると思うので、面白いと思う。

【委員】 ジオパークのサイトを訪れたということと、ミュージアムの入館者を結び付けることができればいいと思う。

【委員】 若い人に受ける方法がよい。

【委員】 なかなか 24 ジオサイトに行って、何か証がもらえればよいが、自然の中だけのジオサイトがほとんどだから、写真なら可能と思う。

【委員】 若い人だと今ライン（LINE）を使っているなので、ラインのアプリとか、ミュージアムのオリジナルがあればそれで発信するとか、そうすればそこから対応が見られるし、誘導にもなる。若者はラインとインスタグラムなのでそこを押さえておかないと。宝石の国展に来た方は皆それを使っていると思う。

3. その他

【委員】 運営部会は年1回の開催か。

【事務局】 12月頃に次年度の予定の報告と合わせて開催している。

今回はせっかくお集まりいただくので協議題を設けさせていただいた。ご意見をいただく場、こちらからの情報を提供する場であったほうが有効と考えているので、そのような素材、題材を用意して、開催については部会長と相談させてもらいたいと考えている。

【委員】 できれば事前に資料もらえれば意見も出しやすいと思う。間に合えばお願いしたい。後半の協議事項はいいとしても、前半の平成30年度の状況などの資料、データだけでもお願いしたい。

【事務局】 できたものから1週間くらい前には配布できるようにしたい。

【委員】 できればそのような配慮をお願いしたい。今日意見いただいたものをまとめて次回の資料に入れていただく、検討課題があればどのような検討がなされたか、といったことを示していただければ助かる。

閉 会

【事務局】 竹之内館長補佐あいさつ

(15:45 終了)

※一部未確定の事業等につきましては掲載しておりませんが、ご了承ください。

以上